

2017年10月13日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 福嶋 慶三

ザンビア国南部地域送電網整備事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年9月22日(金) 14:01~16:30
- ・場所：JICA 本部(1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：日比委員、福嶋委員、村山委員、米田委員
- ・議題：ザンビア国南部地域送電網整備事業(協力準備調査(有償))に係るDFRについての助言案作成
- ・配布資料：
 - ザンビア国南部地域送電網整備事業(協力準備調査(有償))DFR
スコーピング案への助言対応表
 - EIA報告書ドラフト
 - 住民移転計画ドラフト
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第84回委員会)

- ・日時：2017年10月13日(金) 14:30~17:21
- ・場所：JICA 本部(1階 113会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

環境配慮

1. 「法令上の保護区」と「生態系／植物相・動物相」の影響の違いを整理した上で、本事業との関係及び影響の有無・程度をFRに記述すること。
2. 本事業に伴う森林伐採の規模を確認し、その結果をFRに記述すること。また、森林伐採に伴う二酸化炭素の吸収源対策についてザ国政府との協議結果をFRに記述すること。
3. 送電線の建設中および供用後において、送電線へのバードストライク対策の具体的な内容を検討し、その結果をFRに記述すること。
4. 建設時のモニタリング方法をより具体的に検討し、その結果をFRに記述すること。
5. モニタリングの一環として、複数年にわたり鳥類の死亡状況を記録するよう実施機関に提案し、その結果をFRに記述すること。

社会配慮

6. 教会や学校の移転に伴い一時的に影響を受ける人々への配慮を検討し、その結果をFRに記述すること。
7. 被害と便益の偏在や対立が生じた場合の対応策について調整システムを含めて検討し、その結果をFRに記述すること。
8. 「ROW内の農地・牧草地は出来る限り原状回復」に努めたうえで、止むを得ず農地面積が減少する土地については、代替地を含めた具体的な補償方策を実施機関と協議し、その結果をFRに記述すること。
9. 脆弱な世帯への対応策については、より詳細な支援策や移転先に関する内容を検討し、その結果をFRに記述すること。

以 上